

CSF（豚コレラ）の早期終息に向けた 緊急かつ具体的な対策を求める意見書

昨年9月に国内で26年ぶりに発生したCSF（豚コレラ）は、関係者による懸命の努力にもかかわらず、この1年間に14万頭を超える殺処分が行われるなど甚大な被害をもたらしている。また、感染地域についても、養豚の主要産地を擁する関東圏まで広がるなど、終息が見通せないどころか、さらなる広域化の様相を呈している。この状況は、CSF対策が新たな局面に入ったと認めざるをえない。

そこで政府におかれては、今回の事態を国家レベルの危機事案と受け止め、養豚農家が今後も安心して経営を続けられるよう、CSF終息に向けた下記の事項について緊急かつ具体的に取り組むことを強く求める。

記

- 1 飼養豚へのワクチン接種を速やかに進めるとともに、接種後の飼養豚の円滑な流通について、取引価格の下落や風評被害が生じないように、あらゆる手段を講じること。
- 2 CSF感染野生イノシシの拡大を抑止するため、自治体と連携した野生イノシシの捕獲強化や、発生地域を囲むようにワクチンを含んだ餌を山中に散布し、感染を封じ込める「ワクチンベルト」の構築を行うこと。
- 3 現在、アジアにおいて発生が拡大している有効なワクチンのないASF（アフリカ豚コレラ）の国内侵入を防止するため、罰則の強化も含めた一層の水際対策の強化、徹底を図ること。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき、意見書を提出します。

令和元年12月20日

泉佐野市議会